

# 「墨田区都市計画マスタープラン」改定区民ワークショップ 第4回 ワークショップの概要

## ■概要

◎テーマ：学ぶ・つくる「将来の目標や整備方針のアイデアを出し合おう」

◎日時：2007年1月18日 19:00～21:00

◎会場：墨田区役所 13階 131会議室

第4回のワークショップは、第3回で見てきたまちの課題や検討すべき項目にもとづいて、いよいよ具体的なまちづくりの目標や整備方針を検討する回となりました。4つのグループ毎に総勢28名が、これまで以上に熱心な議論を行いました。

また今回は、他のグループの様子をもっと知りたいという声にこたえて30分前から会場を開放し、前回の成果を自由に見られるようにしたところ、多くの方に早くから足を運んでいただきました。

## ■当日の流れは・・・



あいさつと進め方の説明の後は  
前回話し合った内容をおさらいしました



関連資料に目を通すグループもあれば・・・



まちの地図を前に グループも



恒例となった成果を発表「お疲れ様でした」

## ■次回の予定は・・・

このワークショップの検討は次回第5回をもって一旦終了となります。次回は主に今回の成果をもとに作成したまとめのイメージを確認・修正する作業を行います。

(注) ワークショップは事前に参加登録をさせていただいた方にお集まりいただき、これからのまちづくりと20年後の墨田区の将来像について検討しています。参加登録をしていないけれどもワークショップの内容や検討中の案に対するご意見・ご感想・お問い合わせなどがあるという方は [toshikeikaku@city.sumida.lg.jp](mailto:toshikeikaku@city.sumida.lg.jp) (墨田区都市計画課) までご連絡ください。

■Aグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

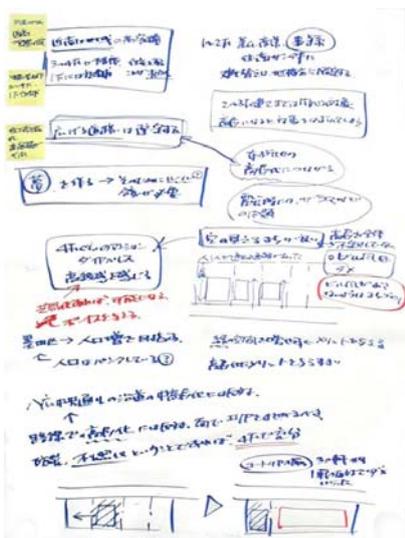
◎Aグループ：荒川沿いの墨田・八広地区に堤通・東向島地区の一部を加えた、おおむね明治通り以北の区の北端部に位置するエリア

～ 住工混在地域／木造密集地域の今後のあり方 ～

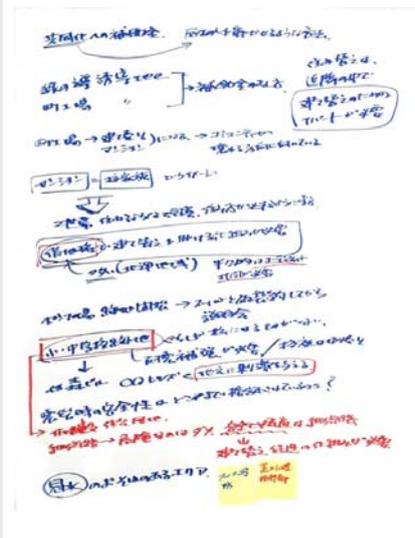


Aグループでは、現在のマスタープランの中で示されている「中高層市街地」というまちのイメージに対する問題意識を出発点に、土地利用のあり方や防災上不安のある木造密集地の建替え支援策のあり方などについて具体的に話し合いを行いました。

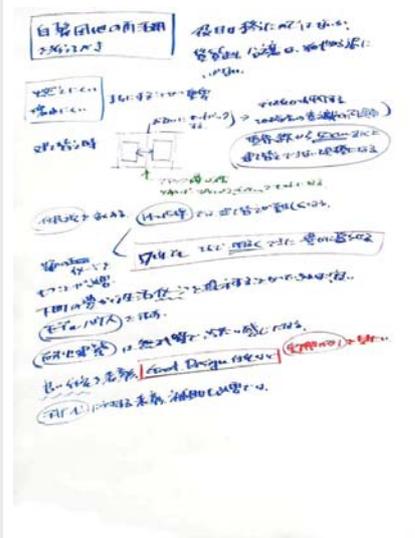
～ 土地利用と建物高さ ～	～木造密集地の建替え促進～	～ その他のアイデア ～
◎空の見えるまちが良い ◎ビル風のないようなまちづくり →4Fぐらいまでが良い →高容積は地元の人限定に →裏側の敷地への影響の大きい路線での高層化には反対 →面でエリアをまとめるべき →高層化につながる道路の拡幅を行う路線を選定する ◎二世帯が暮らせる住まいづくり ・マンション＝核家族というイメージ ・町工場が建て売り／マンションに→コミュニティが崩壊 ◎緑のある空間を増やしたい →高層化ではなく緑の確保に対するメリットを用意する →緑や町工場などの「誘導地区」	◎燃えにくい壊れにくいまちに ◎「安全で快適な細街路」実現のため建替え促進の仕組み →補助金や税制優遇 →共同化に反対の人を動かすような補助金/行政の仲介 →建て替えのためのアパートが必要（住み替えは近隣の中で） →借地での建て替えを助ける仕組みが必要 ◎地権者の意識を変える →お互いにセットバック →ブロック塀は不要 →小さな敷地でも明るく豊かに暮らせる生活イメージ（モデルハウス）を提示する →デザインに対する表彰制度	◎小中学校跡地の活用 →例えば〇〇ヒルズなど地元へ刺激を与えるような跡地利用 →仮設住宅用地として必要 ◎白髭団地の再活用 ・一定の役目を終えたのではないか ◎堤防の整備 ・隅田川に比べて荒川側の堤防へのアプローチが不便 ・冠水の恐れがある地域 →スーパー堤防の整備を検討



(1枚目)



(2枚目)



(3枚目)

■Bグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎Bグループ：東向島・向島・京島といった密集市街地のまちづくりと曳舟・押上・業平橋といった大規模開発が並んだ区の中央部に位置するエリア  
～「隅田川などの河川」と「歩くことができるみち」～



Bグループでは、これまでの議論の内容を確認し、地域の貴重な資源である「隅田川などの河川」と「歩くことができるみち」について、さらに掘り下げて議論し、対岸からみた緑豊かな川沿いの整備、歩ける堤防の整備、みちができた時代にあわせた道路の修景整備などのアイデアがだされました。

～ 隅田川などの河川 ～

- ・江戸の田舎や郊外を感じる公園を整備し、隅田川と一体化したい。
- ・ブルーテントが多く、歩くことができない。
- ・対岸からみると首都高が壁となって、隅田川を渡って来ようという気がおきない。
- ・首都高を地下化して、緑の空間をつくりたい。
- ・首都高で花火が見えない。花火の時は首都高を通行止めにして、首都高を開放し観覧席をつくってはどうか。
- ・荒川区では、隅田川の護岸整備が進んでおり、墨田区内も同じような整備を進めたい。
- ・首都高を地下化しなくても、橋脚にツタを絡ませて隠してしまう方法もある。
- ・昔は入り江があったので、復元できないか。
- ・隅田川と北十間川の合流地点は墨田区の「水の玄関口」になる部分なので、樋門を荒川ロックゲートのように改修し、船が通れるようにする。
- ・曳舟川を再生する。

～ 歩くことができるみち ～

- ・歩くことが主体の地域であり、歩くための「みち」がある。その中心が「路地」で、これを中心に「歩行者専用空間」としたい。
- ・京島を中心に江戸時代につくられた「みち」がある。「みち」の形成過程などを調査し、「みち」がつくられた時代にあった道路や沿道建物をデザインする。
- ・曳舟川通りに川を再生し、歩くことが楽しくなる道路とする。
- ・桜橋通りは、桜並木として、墨堤の桜とともに、桜の名所とする。
- ・京成線は高架でなく地下化し、地上部分を水と緑の空間として、押上から北部地域への歩行者の軸にできないか。

～ その他 ～

- ・墨田区は産業のまちである。起業をめざす人に支援しても、育ててから区外に出て行ってしまう。何とか区内に起業できるような仕組みができないか。



■Cグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎Cグループ：小村井、東あずまの2駅を中心に広がる立花・文花地区に旧中川で結ばれた東墨田地区を加えた、区の東端部に位置するエリア

～ 「地域に人を集める」ためには（公共施設等の活用と地域のイメージアップ）～



Cグループでは、前回出された「道路」「マンション・住宅」「公園と水辺」「公共施設とPR」という視点から、地図をもとにもう一度まちを見直しました。東墨田地区については「地域に人を集める」ことを目標に様々な活動のアイデアが出されました。立花、文花地域については次回もう少し議論を深めます。

～ 東墨田地域 ～

<現在の課題>

- ×住んでいる人が少なく、夜は暗く寂しい雰囲気
- ×工場の跡地に様々な業種の会社が入ってきて、地域としてのまとまりが弱くなっている

<目標イメージ> 『地域に人を集める』

<整備方針>

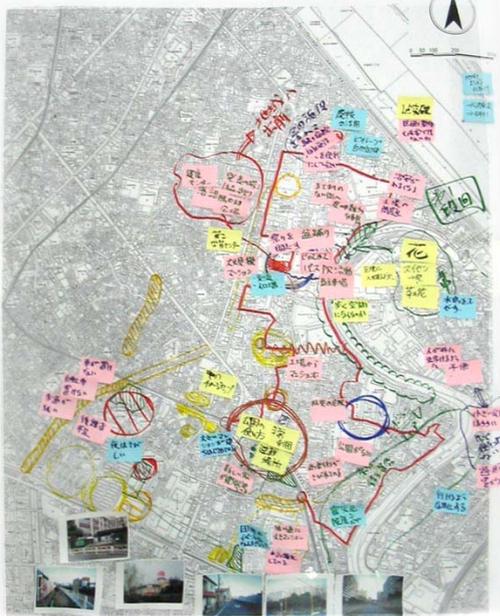
◎地域に既に存在する優れた施設等に人を集める（利用者・交流人口）

- 施設の利用を積極的に働きかける
  - ⇒健康ハウスを落語等の発表の場に・大きな公園での祭など
- 交通不便を解消するよう循環バス（コミュニティバス）を走らせる
- きれいになった旧中川の水辺空間で地域の交流を図る
  - ⇒季節の花（水仙や菜の花など）をグループで栽培・花による水辺の演出・花にちなんだ祭など
- 廃校となった学校の活用方法を考える ⇒ ビオトープなど

◎地域に住む人を増やす（住人）

- 一部の場所で住宅建設が進んでいるように、今後は住む場所としてのあり方も検討する
  - ⇒【長期】区画整理の実施を検討する・土壌の改善などの働きかけを行う

Cグループ



～ 立花地域・文花地域 ～

<現状の課題>

- 個別の建て替えなど大小新しい住宅の建設が進む
- ×周辺と不釣り合いな大型マンションの建設が進む（マンションが建ってもみんな「～～～亀戸」）
- ×道路が細く災害時には危険な箇所が存在する
- 団地とその近所には様々な施設が集まっている
- ×団地では高齢化も進んでいる
- こちら側にはいくつかの商店街がある
- ×しまっているお店も多い、歩道が狭い

<現状のまとめ> 『住みやすいまち』

- 公園や遊び場が多い
- 公共施設が多い
- 買い物が便利住みやすいまち
  - 公園の使い方（例平常時と非常時）などを検討
  - 住みやすい地域の一層のイメージアップを検討

## ■Dグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎Dグループ：南部地域と称されるおおむね北十間川以南のエリア

～ 「川」水辺空間の活用 ～

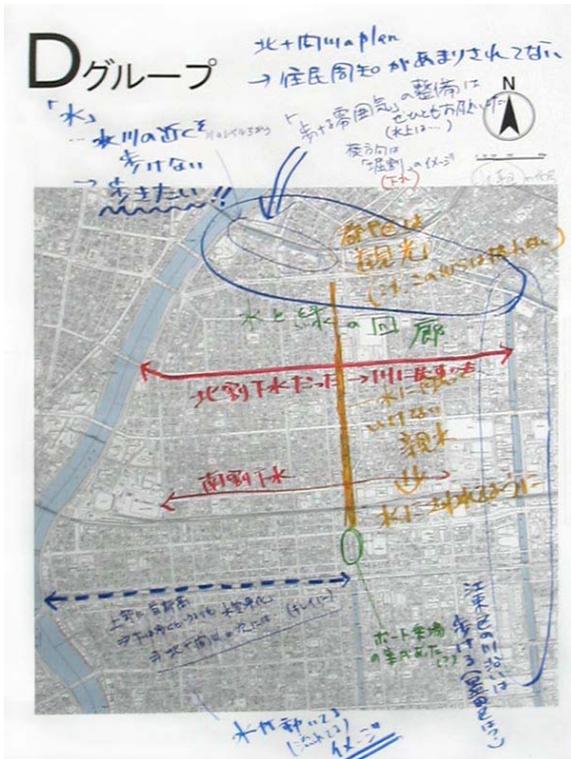


Dグループでは、第3回ワークショップ終了時に「川」をテーマに取り上げることを決めていたため、当初の予定通り「川」について集中的に議論しました。区で作成している「北十間川水辺活用構想」などの資料も眺めながら、地域に存在する／昔あった河川・水路のあり方をまとめています。

### ～ 川に関する全般的な意見 ～

- ◎新タワーの建設やオリンピックの招致計画などがあるが、今後川をどう活用していくかが大事  
→水辺空間が大事
- ◎それぞれの川にあった使い方を検討する必要がある
- ◎道と同じく川も碁盤の目状に走っているので、道と一緒に活用を検討できないか
- ◎川沿いに木を植えて「緑の空間」「憩いの空間」「歩いて楽しい空間」に
- ◎道からと川からの風景は違うので、舟運にあわせた景観づくりも必要
- ◎川幅や橋、水門、運行管理など船を通すには現状では様々な課題がある
- ◎水が汚いので水質浄化が必要
- ◎ゲートの開け閉めによって、川同士を水が流れるようにするべき

### ～ 具体の川に関する意見 ～



#### <北十間川>

◎川の近くを歩きたい

→「歩ける雰囲気」の整備

→水と緑の回廊

◎「堀割」のイメージで整備して欲しい

×計画の住民周知があまりなされていない

#### <大横川（親水公園）>

×親水といいながら水に触れられない箇所がある

?ボート乗り場の計画があった

#### <墨田川>

○河川にテラスをつくるのは良い

×川があるのに堤防が高く川が眺められない

#### <横十間川>

○江東区を流れる川はきれいに整備されている「歩ける」

#### <竪川>

◎高速道路が上を通っているので、歩ける空間の整備よりもまずは水質浄化を

#### <その他>

◎北割下水、南割下水を川に戻すことはできないか